ISUZU

ISUZU LOGISTICS Co., Ltd.
Sustainability Activities



2025

ISUZU GROUP

気候変動対策

ISUZU LOGISTICS

物流過程におけるCO_2排出量の低減

いすゞロジスティクスでは、物流過程におけるCO_2排出量を毎年1%低減することを目標に掲げ、CO_2排出量の低減の取り組みを実施しています。

<主な取り組み>

・輸送方法の見直し

・搬送時の省燃費運転促進

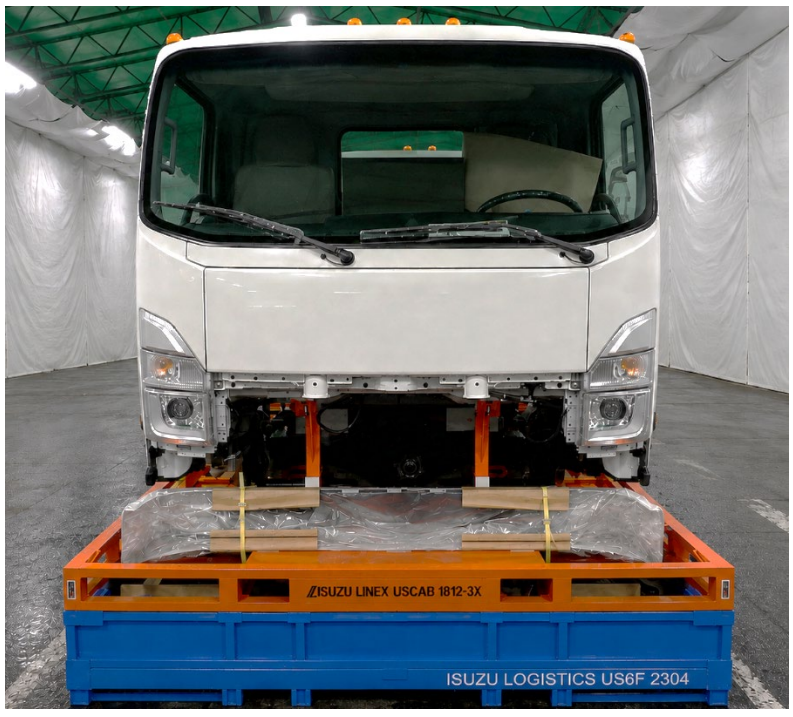
・新規航路開拓による海上輸送の増便（モーダルシフト）

・荷量に合わせたトラック輸送管理の徹底

・返却時に折り畳めるリターナブルラックの使用拡大

・トレーラー輸送の拡大とコンテナ内貨物充填率向上

・コンテナラウンドユースの拡大



キャブ用リターナブルラック（オレンジ）
＋ 部品用リターナブルラック（ブルー）



折り畳まれたリターナブルラック

気候変動対策

ISUZU LOGISTICS

輸送方法の見直し

いすゞロジスティクスでは常に製品、部品の輸送ルートの見直し、最適化を進めており、グループ間の共同運送などを行うことで、輸送に伴うCO_2排出量削減に取り組んでいます。

2024年度には、販売店・修理工場の休業日を把握して、全国の部品配送センターからの配送便の調整を行うことにより、配送トラックを前年度と比べて40台削減し、燃料1,053ℓを削減しました。また、従来は関西配送センターから奈良サービスセンターを経由して三重あのつ部品センターへ配送していましたが、中部配送センターから配送するルートに変更して約30㎞の輸送距離を短縮し、CO_2排出量を削減しました。

さらに物流2024年問題解消への取り組みとして、従来は藤沢地区から栃木地区への配送便は一般道を走行していましたが、往復便全線を高速道路利用に変更することにより燃費向上とCO_2排出量の削減を実現しました。

また、配送拠点である倉庫内も環境負荷低減に取り組み、軽油を燃料とするディーゼルフォークリフトから、電動フォークリフトへ切り替え、2030年度までにディーゼルフォークリフト0（ゼロ）を目標に活動しています。2024年度からは栃木エリア倉庫内のLED照明を人感センサー付き照明へ交換し、無人時には自動で消灯する仕組みを構築しました。その結果、大幅にCO_2排出量を削減し、職場環境も改善されました。



電動フォークリフト



人感センサーにより無人時に消灯された倉庫

ISUZU LOGISTICS

コンテナラウンドユースの拡大

いすゞロジスティクスでは物流分野全体でカーボンニュートラル活動を実施しており、栃木、藤沢、横浜港、上尾の各エリアで、輸入用コンテナから貨物を取り出した後、空になったコンテナを輸出用コンテナとして再利用するコンテナラウンドユース（CRU）に取り組んでいます。

栃木エリアでは従来、栃木工場で梱包されるノックダウン(KD)部品の輸出用空コンテナを横浜港まで引き取りに行っていましたが、現在では船社が指定する栃木工場近隣の内陸エリアのデポで他社が貨物を取り出した輸入用コンテナを引き取り、栃木工場にてKD部品の輸出用コンテナとして再利用しています。

また、藤沢エリアでは他社との協業により、貨物を取り出し後の空コンテナを横浜港へ戻さず、藤沢工場近隣のいすゞグループ倉庫へ持っていき、KD部品の輸出用に再利用するCRUを実施しています。

2024年6月からはいすゞグループ内でのCRUにも取り組み、海外の組み立て工場が藤沢エリアへリターナブルラックを返却する際に利用した空コンテナを横浜港へ戻さず、同一エリアでKD部品の輸出用コンテナに再利用しました。

このような4エリアでのCRU活動により安定的な物流の確保が可能になり、輸送時の使用燃料を年間約2万ℓ削減したことで、CO_2排出量の削減にもつながりました。

また、一般社団法人日本物流団体連合会よりCRU活動を評価され、協業他社とともに2022年度、2023年度、2024年度 物流環境大賞「特別賞」を受賞しました。



物流環境大賞「特別賞」トロフィー





CRU KD出荷コンテナ内外

ISUZU LOGISTICS

部品梱包ケース搬送便の削減

いすゞロジスティクスではさらなる取り組みとして、ノックダウン（KD）部品を梱包したケースの物流に着目し、物流運営の効率化を図りました。

従来では、生産と船積み計画を個別に行っており、生産した部品を梱包したケースをKD工場から外部倉庫へ搬送、一時保管した後、船積み計画に合わせてコンテナへ部品の積み込み作業を行っていました。

KD部品の外部倉庫への搬送を減らすため、仕向地別の船積み計画を起点に生産を計画するようにしました。船積み日を起点として逆算し、KD工場での部品をケースへ梱包する日を設定することで、次の工程であるコンテナへのケース積み込み作業を連続してKD工場で行うことが可能になったため、外部倉庫へのケース搬送が減少しました。

その結果、2024年4月より年間で大型トラックによる搬送便数を1,250便、使用燃料を約1,200ℓ、CO_2排出量 約3tをそれぞれ削減しました。



KD工場でのコンテナへの部品積み込み作業

ISUZU LOGISTICS

梱包・包装資材の削減：リターナブルラックの導入拡大（1/2）

いすゞロジスティクスでは、物流全体における環境負荷を低減する活動の一環として、グループ内で行う梱包出荷から海外工場における廃棄までを考慮した、環境負荷の少ない梱包資材の導入拡大を推進しています。中でも繰り返し利用可能な全仕向地共通の(リターナブルラックの導入は2017年から推進しており、国内外の工場間部品輸送などに順次展開・拡大しています。リターナブルラックの導入拡大により、海外の組立工場で廃材となっていた、ノックダウン（KD）部品の梱包用ワンウェイラックの使用を削減することができました。従来は木製でワンウェイであったキャブ用ラックも鉄製のリターナブルラックへ変更することで、廃棄時の釘抜きなどの木材解体作業が不要となり、作業時の安全性も向上しています。



リターナブルラック

資源循環推進

ISUZU LOGISTICS

梱包・包装資材の削減：リターナブルラックの導入拡大（2/2）

2019年度は、単体重量が従来比33%減の軽量型リターナブルラックやコンテナ内の充填率を上げるための高さ違いの2種類のラックも開発し、2023年度には主要仕向国への展開が完了しました。

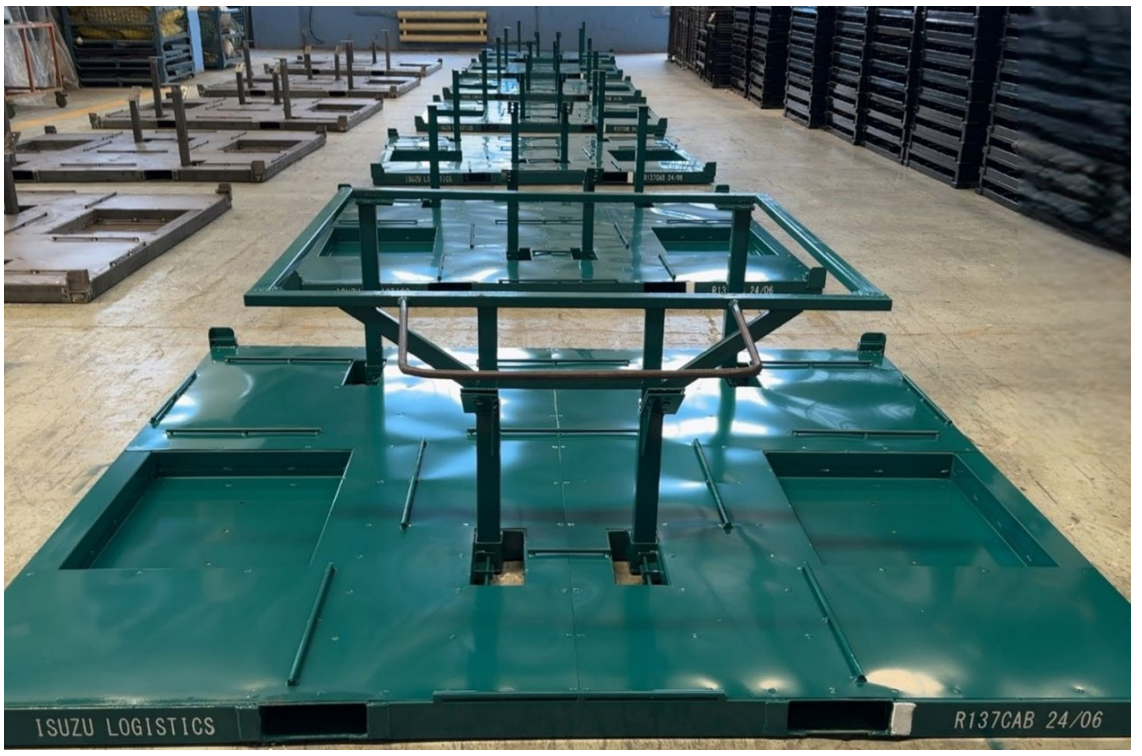
2021年度からは完成キャブをコンテナに積載する際に発生する上部空間を活用するため、キャブ用ラックの下に入る部品用リターナブルラックを開発しました。これにより、段積みによるコンテナ内充填率が向上しました。アクスルなどの大物部品や他のコンテナを使用して出荷していた部品をこの部品用リターナブルラックに搭載することにより、40ftコンテナを年間約300本分削減でき、省資源化のみならず、輸送における温室効果ガス（GHG）の低減にもつながっています。

また、 2025年度より以前から新規モデル車型に合わせて開発してきた新規キャブ用リターナブルラックを追加導入しました。

今後も、環境負荷の低減と物流効率の向上を目指し、リターナブル資材の有効活用を推進していきます。



キャブ用リターナブルラック（黄色）
+ 部品用リターナブルラック（グレー）



新規キャブ用リターナブルラック

資源循環推進

ISUZU LOGISTICS

梱包・包装資材の削減：ストレッチフィルムの廃止

いすゞロジスティクスでは資源循環活動の一環として、国内拠点間の搬送に使用している資材の削減にも取り組んでいます。

部品を国内の2拠点間で搬送する際、2段の台車を使用しており、屋外作業が発生することを考慮し、その台車の上から雨避けカバーを設置しています。従来はその雨避けカバーから包装部品の落下を防ぐため、カバーの上からストレッチフィルムを巻き、搬送後はそのストレッチフィルムを廃棄していました。また、高さ50㎝、重量2kgのストレッチフィルムを持ち上げて、2段の台車を2周巻く作業は姿勢が悪く、作業者への腰痛や転倒リスクもありました。2024年10月より、ストレッチフィルムから繰り返し使用可能なラッシングベルトへ変更し、作業面では軽量のラッシングベルトを2本巻くだけで容易となり、品質面においても台車からの部品の落下がなくなりました。この取り組みにより、ストレッチフィルムの廃棄量を年間約5t削減し、作業効率も改善されました。



（変更前）ストレッチフィルムを巻く作業



（変更後）ラッシングベルトを巻く作業

資源循環推進

ISUZU LOGISTICS

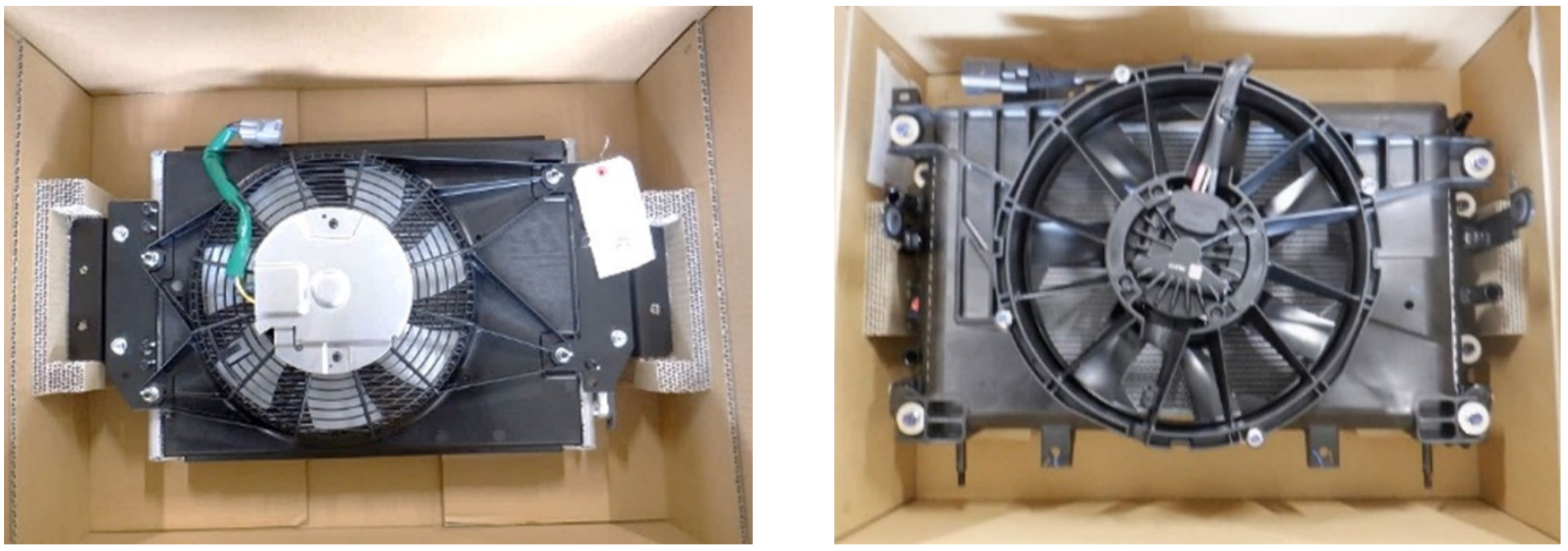
梱包・包装資材の削減：プラスチック固定材から段ボール固定材への切り替え

いすゞロジスティクスでは、持続可能な社会の実現に向け、日々、環境に配慮した梱包方法を検討しています。

2024年度には、初のEV車のKD生産に伴い、車両コンセプトに合わせ、環境に配慮した梱包資材の開発、採用を本格的に開始しました。従来は、梱包仕様を設計する際、部品の固定材には石油由来であるプラスチック発泡材を主に使用していましたが、EV車の車両コンセプトに合わせ、段ボールを用いた固定材の導入に取り組みました。

品質やコストなどクリアすべき課題が多くありましたが、2024年6月よりEV車のラジエターを含む8部品に段ボール固定材を導入することで、プラスチック発泡材を年間308kg削減することができました。

今後も引き続き環境に配慮した設計を取り入れ、梱包分野でも環境負荷の低減に貢献していきます。



段ボール固定材を使用した部品包装

生物多様性保全

ISUZU LOGISTICS

生物多様性保全活動を推進

いすゞロジスティクスでは、いすゞ藤沢工場において近隣大学と協働で実施されている生物多様性保全活動に、2023年度より多くのメンバーが継続して参加しています。2024年12月には21名、2025年3月には15名の社員が活動に参加しました。

いすゞ藤沢工場では、2013年から工場敷地内の動植物の調査を実施し、その結果、林地の手入れ不足により、生態系の偏りや外来種の繁茂が見られ、里山としての公益的機能が弱まっていることがわかりました。これを受け、大学からの助言をもとに、2016年度から在来種が生育するエリアを「エコアップエリア」に指定し、環境整備を進めています。2017年以降の継続的な調査では、外来種の減少や生態系の偏りの改善傾向が確認されています。

また、いすゞ藤沢工場内のエコアップエリアには、在来種である「ツルボ」や「シロヨメナ」が群生しています。工場敷地内でこのような群生が見られることは大変珍しいことから、群生地の生育環境の改善を進めています。いすゞロジスティクスでは、こうした活動への参画に加え、2023年度から、いすゞ藤沢工場内に自生するツルボ・シロヨメナを譲り受け、プランターに植え替えて自社で育成する取り組みも進めています。

今後も、いすゞグループの一員として地域の生態系に配慮した活動を推進し、生物多様性の保全に貢献していきます。



いすゞ藤沢工場 エコアップ活動



譲り受けたツルボの開花



譲り受けたシロヨメナの開花

生物多様性保全

自然素材を活用した生物多様性保全活動

いすゞロジスティクスでは、いすゞ自動車の藤沢工場および栃木工場で行われている生物多様性保全活動の一環として、どんぐりや松ぼっくり、つるなどの自然素材の採取活動に参加しています。採取した自然素材は廃棄せず、いすゞプラザで来館者向けに実施するワークショップや、毎年12月に開催する「クリスマスリース作り」ワークショップの材料として有効活用しています。身近な自然素材に触れる機会を提供することで、生物多様性や自然環境への関心を高める取り組みにもつなげています。

2024年10月にいすゞ藤沢工場で開催された自然素材の採取活動には、いすゞロジスティクスからも7名が参加しました。今後も、いすゞグループの一員として、自然環境の保全と資源の有効活用につながる活動に継続して取り組んでいきます。



自然素材の採取活動



採取したツバキの実



採取した自然素材で作った
クリスマスリース

生物多様性保全

かながわ水源の森林づくり活動

いすゞ藤沢工場では、2018年度から神奈川県の「森林再生パートナー制度」に参画し、同工場で使用する地下水の水源となる森林を守るため、足柄上郡の「やどりき水源林」において保全活動を実施しています。いすゞロジスティクスも、いすゞグループの一員として本活動に参加しています。活動では、健全な森林環境の再生に向けた間伐作業や自然観察などを行っています。こうした活動を通じて、生物多様性の大切さへの理解を深めるとともに、事業活動を支える水資源と、その水源となる森林を保全することの重要性を再認識する機会としています。2024年11月に実施された保全活動にも、いすゞロジスティクスのメンバーが参加しました。今後も、いすゞグループと連携しながら、水源林の保全と生物多様性の保全に貢献していきます。



ネーミングライツの看板



インストラクター指導のもと、ツル切り

地球の「運ぶ」を創造する

ISUZU

ISUZU GROUP